

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽西中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	152人	社会	152人	数学	152人
	理科	152人	英語	152人		

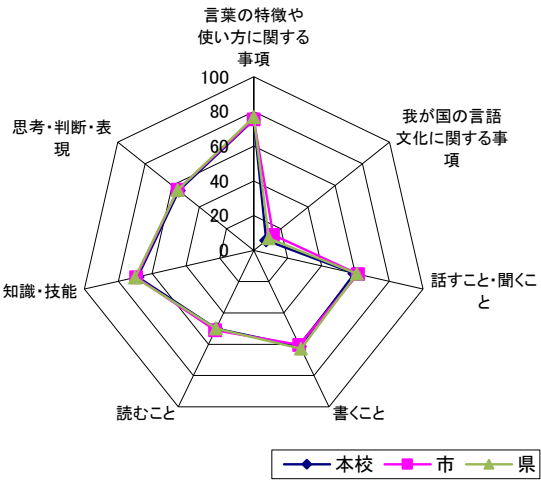
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.2	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	9.2	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	59.5	61.6	60.9
	書くこと	61.4	60.4	62.9
	読むこと	49.9	51.0	49.9
観点	知識・技能	68.6	69.4	70.1
	思考・判断・表現	55.2	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

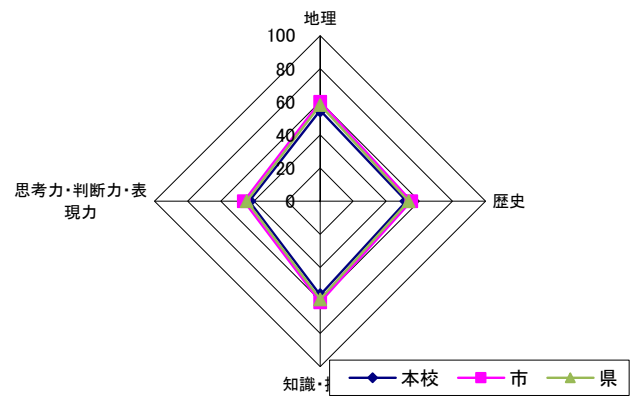
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、県の平均を1.5ポイント、市の平均を0.3ポイント下回った。 ○漢字の読みについては市の平均よりもわずかに上回っている。文法に関しても、単語分け、文節分けについては市の平均よりも上回っている。故事成語の使い方の問題については、市の平均よりも2.2ポイント上回っている。 ●漢字の書きについては、市の平均よりも1～6ポイント下回っている。	・漢字の書きについての正答率が低いため、言葉の特徴や使い方に関する事項全体が市平均よりも0.3ポイント下回っている。今後、漢字を書く練習に時間をかけて取り組ませたい。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、市の平均より5.1ポイント低く、他の領域等に比べると、落ち込んでいる。	・今後、歴史的仮名遣いの特徴に関して、改めて丁寧に説明して、繰り返し練習問題に取り組ませるようにする。また、古典の一節を暗唱させたり視写させたりして、古典の言葉に親しむ機会を多く取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より2.1ポイント低い。 ●最も正答率が低かった問題は、「話し手の話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題」で、市の平均よりも5.6ポイント低い。	・話すこと・聞くことに関する問題の全てで、市の平均よりも下回った。今後、自分の考えや根拠が明確になるように話の構成を考えさせるように指導し、必要に応じて記録しながら話の内容を捉えるなどの問題に取り組ませる。
書くこと	平均正答率は、市の平均より1ポイント下回っている。 ○対象問題4問のうち、「指定された長さで文章を書く問題」は4.5ポイント、「読み取った内容を明確にして書く問題」は4.6ポイント、市平均を上回った。 ●「2段落構成で文章を書く問題」では1.9ポイント、「読み取った内容を明確にして書く問題」では3.1ポイント市の平均を下回った。	・今後は段落を一文下げた段落を作り、第一段落で書いたことを踏まえて、第二段落で自分の考えと理由を書く練習など条件に合わせた文章を書く練習に取り組ませる。
読むこと	平均正答率は、市平均より1.1ポイント下回っている。 ○対象問題8問のうち、3問は市の平均を上回った。特に、「文章の構成や展開について根拠を明確にして考える問題」は4.4ポイント市平均よりも上回っている。 ●「文章で述べられていることを参考にした内容として適するものを選ぶ問題」では6.6ポイント市の平均よりも下回っている。	・今後は文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができかどうかを考えさせながら、問題に取り組ませる。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	54.8	60.1	58.1
	歴史	52.2	55.1	53.5
観点	知識・技能	56.7	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	42.8	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

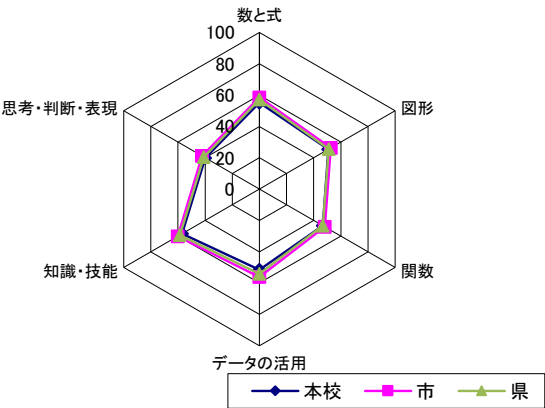
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	●地理的分野においては市の平均を5.3ポイント下回った。特に地図を用いる問題において、赤道の位置や、大洋や島の名称など、基本的な問題に対する正答率が低かった。 ●正誤問題や短答形式の問題に比べ、記述式問題の無回答率が高い。	・日本の地域的特色の学習や、日本の諸地域の学習でも既習事項と関連付けながら学習できるようにし、基礎基本の定着を図る。 ・気候帯や気候区分などの基本内容が定着するよう、日本と世界を比較する内容などを取り入れる。 ・毎時間の授業で前時の学習内容の復習を取り入れることや、小テストなどの実施を行い知識の定着を図る。 ・資料や図の読み取りについては、一つの資料について考え、具体的に文章にまとめるためのポイントを提示する。 ・単元の最後には振り返りとして自分の言葉で学習内容をまとめる活動なども取り入れていきたい。
歴史	●歴史的分野においては市の平均を2.9ポイント下回った。 ●正誤問題や短答形式の問題に比べ、記述式問題の無回答率が高い。 ○「古代ギリシャの政治のしくみについて理解しているかどうかをみる問題」では2.2ポイント、「律令国家における人々の負担について、複数の資料を関連させて読み取り、考察しているかどうかをみる問題」では4.7ポイント市の平均を上回っている。	・毎時間の授業で前時の学習内容の復習を取り入れることや、小テストなどの実施を行い知識の定着を図る。 ・古代の政治制度などに関して、図や資料についてわかりやすい例を示したり、時代ごとの比較をすることで変化や特徴を理解できるようにしていく。 ・時代ごとの政治の仕組みや文化などを比較して変化したこととその理由を考察する授業を取り入れ、歴史の流れが理解できるようようにしていきたい。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	55.2	58.6	57.2
	図形	50.8	52.6	51.1
	関数	46.7	48.2	46.8
	データの活用	51.5	56.1	54.1
観点	知識・技能	57.0	60.2	58.6
	思考・判断・表現	39.9	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

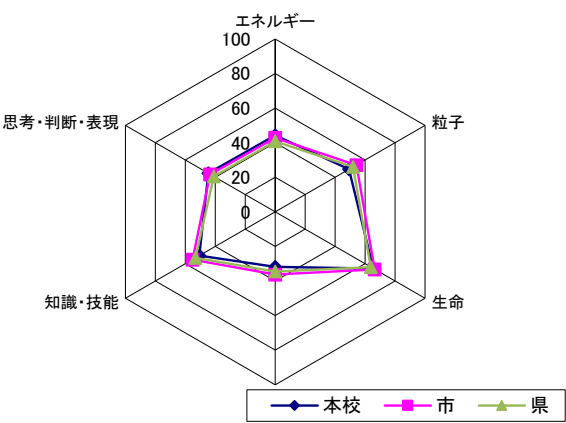
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、県の平均を2.0ポイント、市の平均を3.4ポイント下回った。 ○「絶対値について、正しいものを選ぶ」問題では、市の平均を4.0ポイント上回る正答率であった。 ●「素因数分解をする」の問題では、市の平均を20.9ポイント下回る正答率であった。	・計算技能の向上のため、授業の最初に、計算問題の復習や小テストなどを取り入れ、基礎基本の定着を目指す。
図形	平均正答率は、県の平均を0.3ポイント、市の平均を1.8ポイント下回った。 ○「回転移動した角度について、正しいものを選ぶ」問題では県の平均を6.9ポイント上回る正答率であった。 ●「底面が合同な正四角柱と正四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ」問題では、県の平均を4.8ポイント下回る正答率であった。	・作図の問題を繰り返し行い、定着を図る。 ・四角錐の体積、円柱の側面積などでは、デジタル教科書や模型、タブレットを活用し視覚化することで、疑問解決につながる指導を目指す。
関数	平均正答率は、県の平均を0.1ポイント、市の平均を1.5ポイント下回った。 ○「反比例の関係におけるx,yの値から、反比例の式を選ぶ」問題では、県の平均を3.2ポイント上回る正答率であった。 ●「yがxの関数になっているものを選ぶ」問題では、県の平均を6.0ポイント下回る正答率であった。	・比例・反比例の分野は、関数の学習の中で、2年生の1次関数、3年生の2乗に比例する関数につながる大切な領域である。比例・反比例の内容を復習しながら、1次関数の関数の学習に取り組ませていく。 ・表、式、グラフなどの基本的な事項についてのつながりを再確認する。
データの活用	平均正答率は、県の平均を2.6ポイント、市の平均を4.6ポイント下回った。 ●「度数分布表から、ある階級の累積度数を求める」問題では、県の平均を10.5ポイント下回る正答率であった。 ●「示された考えが正しい理由を、2つの度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明する」問題では、市の平均を13.6ポイント下回る正答率であった。	・度数分布表から累積度数を求めたり、度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明する問題の練習を多く取り入れていく。また、語句を使って説明する問題を練習する機会を増やし、思考力や理解力を高めていく。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	44.3	42.8	40.8
	粒子	49.3	54.2	52.0
	生命	65.5	66.4	63.8
	地球	31.7	36.2	34.5
観点	知識・技能	50.7	55.2	53.3
	思考・判断・表現	44.6	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

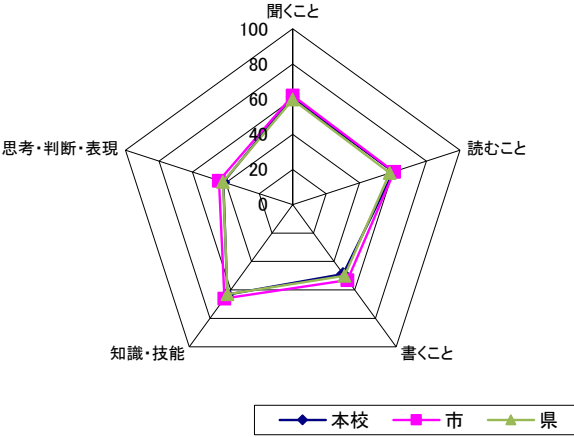
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、県の平均を3.5ポイント、市の平均を1.5ポイント上回った。 ○「光の道筋を作図する」問題では、市の平均を16.5ポイント上回る正答率であり、実像及び虚像の作図における反復練習が効果的であった。 ●「誤った考察を正しく書き直す」問題では、市の平均を4.6ポイント下回る正答率であった。	・記述問題に関しては、市の平均と比較しても無回答率が高い。日々の授業の中で実験の考察指導に力を入れ、自分の考えを言葉で表現する力を養っていく。
粒子	平均正答率は、県の平均を2.7ポイント、市の平均を4.9ポイント下回った。 ○適切な粒子モデルを選択する問題では、県の平均を3.9ポイント上回る正答率であった。 ●アンモニアの性質を問う問題では、市の平均を12.9ポイント下回る正答率であり、アンモニアを含め、気体の性質を十分に理解できていないと考えられる。	・それぞれの気体について、授業で扱う際に、性質を問うなど定期的な復習を行うことで、知識の定着を図る。
生命	平均正答率は、県の平均を1.7ポイント上回り、市の平均を0.9ポイント下回った。 ○植物の分類の基準を指摘する問題では、市の平均を5.6ポイント上回る正答率であった。 ●考察を検討して改善できるかどうかを問う問題では、市の平均を9.7ポイント下回る正答率であり、種子植物における応用力に課題が見られる。	・植物の特徴についての知識をもとに、分類に応用していく力を養うために、復習の際、応用的な問題演習を実施していく。
地球	平均正答率は、県の平均を2.8ポイント、市の平均を4.5ポイント下回った。 ○地層の特徴と堆積の様子に関する問題では、県の平均を2.9ポイント上回る正答率であった。 ●震源からの距離を問う問題では、市の平均を0.5ポイント下回る正答率であり、科学的に考える力に課題が見られる。	・計算を伴う問いに関する苦手意識が強いいため、各単元における計算の演習を充実させる。 ・地震の計算において着目すべきポイントを提示していく。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.2	62.0	59.7
	読むこと	60.2	60.6	58.0
	書くこと	48.9	53.1	50.1
観点	知識・技能	63.3	66.0	63.0
	思考・判断・表現	41.5	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市の平均は0.8ポイント下回ったが、県の平均を1.5ポイント上回った。 ○「対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ問題」では、市の平均を6.1ポイント、県の平均を7.4ポイント上回った。 ●「英文の要点を聞き取り、適切に移動方法を選ぶ問題」では、市の平均を7.3ポイント、県の平均を2.9ポイント下回っている。	・様々な問題形式に対応できるようにするため、AIDリルのリスニング問題などを活用し、英文を聞く練習をより多く取り入れていく。 ・英語を英語のまま理解できる耳を育てるため、普段の授業で英語を聞いたり、音読練習をしたりする機会を計画的に取り入れるなど指導を工夫する。
読むこと	平均正答率は、市の平均を0.4ポイント下回ったが、県の平均を2.2ポイント上回った。 ○「英文を読んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選ぶ問題」では、市の平均を4.9ポイント、県の平均を8.1ポイント上回った。 ●「対話から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶ問題」では、市の平均を3.2ポイント、県の平均を2ポイント下回り、課題が見られる。	・デジタル教科書の音声、絵や映像を参考にしながら、単語の意味を推測し、教科書の英文の概要をつかむ練習や他の長文問題にも計画的に取り組ませる機会を用意し、継続していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を4.2ポイント下回り、県の平均を1.2ポイント下回った。 ○「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制のbe動詞の肯定文を正確に書く問題」は、市の平均を1.1ポイント下回っているが、県の平均を2.9ポイント上回っている。 ●「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の一般動詞の肯定文を正確に書く問題」は、市の平均を14.5ポイント、県の平均を13.2ポイント下回っており、課題が見られる。	・習った文法を使って英文を作る練習を繰り返し行うことで、自分の力で英文を構成し、まとまりのある文章を作る力を育てる機会を授業の中で確保する。 ・生徒が書いた英文をALTに添削してもらい機会を多く設け、生徒自身が表現したいことについて英語で正確に表現できる力を身に付けるような指導を工夫していく。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の質問に対して、肯定的回答は、市とほぼ同じで、県より3.3%高い。「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか。」の質問に対して、5教科の肯定的回答は、どれも県の平均と同じくらい高く、特に数学の肯定的回答は、市や県の平均よりも4%ほど高い。タブレットを活用するなどしてさらに理解を深め主体的に学習する力を身に付けられる授業展開を工夫して、指導を行っていききたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている。」の質問に対して、肯定的回答をした生徒は91.4%で市や県の平均より約3%近く高い。「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の質問に対して、肯定的回答をした生徒は、71.7%と市や県より、やや高く、学年、各学級での雰囲気良好であると考えられる。今後もさらに生徒一人一人が居心地のいい学校生活が送れるように、よい環境作りを工夫していく。

●「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」などの質問に対して、市や県の肯定的回答割合よりかなり下回っており、特に「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」に関しては、市の平均より13.7%、県の平均より15%も下回る結果となっている。本校では、今まで以上に家庭学習に取り組ませようと「自主学習ノート」を毎朝提出させ、確認する」ということを行っているため、後半のよい結果につながっていくように指導をしていきたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。」という質問に対して、1時間以上読書しているという生徒の割合は、市の12.5%、県の14.4%に比べて、11.2%とやや下回っており、読書習慣が確立していないことを示していると思われる。読書の大切さを理解させ、家庭での読書の時間も確保できるよう指導していききたい。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」などの質問に対して、市や県の肯定的回答割合より低くなっている。また、「早寝、早起きを心がけている」の質問に対して「はい」と答えた生徒は31.9%で市の平均より2.7%、県の平均より3.8%低くなっている。これらはSNSの使い方も影響していると考えられる。基本的な生活習慣も含めて、家庭での過ごし方を保護者の方々と連携しながら指導していききたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の強化	・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習のやり方を示し、内容を充実させる指導を行う。 ・「自主学習のたね」等自主学習用のワークシートを配備する。 ・「家庭学習強化週間」を実施し、家庭の協力を依頼する。	「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と肯定的に回答した生徒の割合は65.1%で、市(62.8%)及び県(63.6%)の割合を上回っている。
「分かる授業」の展開	・数学及び英語科においては、T・Tや習熟度別学習の効果的な指導を工夫する。 ・定期テスト前に「質問学習」の期間を設け、分からないところの解消につながる時間を設ける。 ・放課後に月2回程度「レベルアップ学習」の時間を設け、数学を中心に基礎力が不足する生徒の個別指導を行う。	「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」と肯定的に回答した生徒の割合は71.7%で、市(69.8%)及び県(69.4%)の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」と肯定的に回答した生徒の割合は50%で、市(63.7%)及び県(65%)の割合を10ポイント以上下回っている。	・定期テストの見直しをする時間を学校で設定する。	・『学習強化週間』として、学習委員が作成したテスト予想問題を、朝の10分間に1日1教科ずつ行う。 ・定期テスト前の部活動が中止になる期間に、『質問学習』として、テストの範囲で分からないところを教員に質問する時間を放課後30分程度設ける。 ・『学習強化週間』として、定期テスト実施後にテストが返却されたタイミングで、朝の10分間を使い、5教科のテストの見直し(1日に1教科)をする時間を設ける。